

謹賀新年

平成24年（2012年）1月1日発行

12月20日 新学長に波多野純教授が就任

任期は平成27年12月19日までの4年間

12月20日（火）、波多野純教授（工学部生活環境デザイン学科）が学長に就任した。柳澤章前学長の任期満了に伴い、11月24日（木）の理事会において就任を決定した。任期は平成23年12月20日から平成27年12月19日までの4年間。新学長の学界及び社会における活動としては、埼玉県文化財保護審議会委員、さいたま市文化財保護審議会委員、東京都板橋区文化財保護審議会委員、建築史学会常任委員などがある。主たる業績は、長崎出島・佐賀城本丸御殿・足利学校など歴史的な建築と町並みの保存・修復・復原、江戸の都市空間の研究等であり、長年、建築分野における教育・研究に貢献してきた。

新学長に聞く

現場のプロジェクトリーダーを育てる大学へ

問 学長就任おめでとうございます。どのような学長を目指しておいでですか。
波多野 私は、学生と、教職員と、夢や希望、志を語り合い、それを外に向かって発信できる学長になりたいと思います。大学は理想を掲げ、それに向かって楽しく努力を続ける場です。大学が現実社会に埋没し、理想を見失ったら、日本の未来はありません。

問 もう少し説明して下さい。
波多野 「実工学」は、本の夢を、大学のユニークな教育によって実現して欲しいと願っていますし、そのための教育改革に努めてきました。

問 教育と言えば、柳澤前学長は「実工学」教育を提唱されました。
波多野 「実工学」は、本の夢を、大学のユニークな教育によって実現して欲しいと願っていますし、そのための教育改革に努めてきました。



新学長 波多野 純

波多野 日本工業大学は、工学技術を力に、アジアで、そして世界で活躍できる、現場のプロジェクトリーダーを育てる大学です。学生諸君には、さまざまなプロジェクトの現場で困難な問題に遭遇した時、「君がいてくれてよかった」と感謝される技術者になるって欲しいと願っています。

問 「近頃の若者は夢がない」「何をやっていいかわからない人が多い」と言われますが、いかがお考えですか。
波多野 「近頃の若者は…」と言う言葉は、数千年前のエジプトの遺蹟の落書きにもあったそうです。言い古された言葉です。でも私は、本学の学生はもろろん、本学の志望する高校生も、ものづくりにかける夢が、志があると信じています。そ

の夢を、大学のユニークな教育によって実現して欲しいと願っていますし、そのための教育改革に努めてきました。

問 来年度には、ものづくりに環境学科と生活環境デザイン学科の第1期生が卒業します。それに合わせて大学院を再編するとお聞きしましたが。
波多野 その通りです。本学は、2001年にISO14001の認証を取得するなど、「環境が学べる大学」として、社会的に高い評価を得ています。エコ大学ランキングでも、昨年度は私立大学部門の第一位、今年度も二位をいただいています。「環境」を学科名に掲げる2学科は、工学の視点から環境を捉え直す、本学の志の証です。大学院再編にあたっては、「環境」を重要なキーワードと考えています。もう一つ重要なのは、狭い専門領域にとらわれ

ず、広い視野でプロジェクト全体を見通す技術者を育てることです。その教育プログラムとしてPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）を考えています。指導教員ばかりでなくさまざまな分野の教員の指導を受け、チームでプロジェクトを成功に導く体験的学習です。

問 厳しい就職環境の中で、教養教育については、どのようにお考えですか。
波多野 全国的に就職率が下がり、学生にとってはつらい時代です。がんばっているのに就職が決まらない学生を見るのはつらいです。でも、本学には他大学にはない、大きな特色があります。ほとんどの卒業生は、自分の専門を生かした就職先をみつめています。会社規模よりも、本学で身につけた専門的な能力が生きる就職先をみつけて欲しいと思いますし、学生もそのように自覚していると信じています。専門性を重視したキャリア教育も充実させてきました。加えて、幅広い視点から世界を見つめる、豊かな教養と英語によるコミュニケーション能力が不可欠です。英語教育については、改革が実を結びつつあります。そのほかの教養教育についても、より充実するよう、努力したいと思っています。

問 事務職員についてはどのようにお考えですか。
波多野 教育は、教員の方だけでうまく行くわけではありません。教員と職員、さらに学生と一緒に作り上げるものです。また、教育は教室や実験室だけで行われているわけではありませ

問 物心両面に渡るすべての条件が整って実現できるのです。事務職員の皆さんも、大学の理想に向けてとにも努力するチームの一員であることを忘れてはなりません。事務職員の皆さんには、もっと前へ出て欲しいと期待しています。

問 最後に学外へ向けてアピールして下さい。
波多野 本学は、自分のことを自慢するのが下手な大学です。本学をお訪ね下さった多くの方が、「こんな良い大学なのに、何でもっとアピールしないんだろう」と言っているんです。教員は、社会的貢献度の高い優れた研究活動を展開しています。学生も本気でものづくりを楽しんでおり、学生フオーミュラや鳥人間コンテストでの活躍が楽しみです。学外の方も、気楽に日本工業大学を訪ねて下さいます。本学の魅力を実感し、ファンになっていただければいいかな。

年頭所感

大学50周年への夢



理事長 大川 陽康

ン学科専用の教学棟を建設する予定であります。学生の期待に応えられるよう一層の努力を傾注したいと思っています。

また、自然エネルギー導入施策として、工業技術博物館屋上の太陽光発電システムを設置中であります。全学で523箇の発電量を記録するものとなりますが、地道に取組んでいる成果が着実に伸展していることを裏付けするものとなります。

世界の中の政治・経済動向を見聞きするたびに、その閉塞感に対して憂鬱な気分になるのは私だけではないと思いますが、我が学園の歩みを更に進めるため、全学園の教職員が強い連帯感を醸成して持てる力を大いに発揮して今年1年を明るい年にしようではありませんか。

日本工業大学 大学院工学研究科 博士前期課程・博士後期課程
●機械工学専攻 ●電気工学専攻 ●建築学専攻 ●システム工学専攻 ●情報工学専攻

本学で先端技術研究の取り組みを

社会人大学院生 募集！（日本工業大学 社会人特別選抜）

■平成24年度 大学院 社会人特別選抜入試日程					
	出願期間	試験日	試験内容	合格発表	入学手続締切
二次募集	2月6日(月)～2月14日(火)	2月22日(水)	書類選考・面接	3月2日(金)	3月12日(月)

日本工業大学 専門職大学院 (大学院技術経営研究科技術経営専攻)
中小企業技術経営コース/プロジェクトマネジメントコース/新事業創造・起業コース

働きながら学べる専門職大学院 第8期生 募集！

■平成24年度 専門職大学院 入試日程				
	出願期間	試験日	合格発表	入学手続締切
第3回募集	12月19日(月)～1月10日(火)	1月15日(日)	1月18日(水)	1月28日(土)
第4回募集	2月13日(月)～2月20日(月)	2月26日(日)	2月29日(水)	3月10日(土)

願書のご請求およびお問い合わせ先：教務部教務課 大学院入試係 TEL0480-33-7507(直通)
日本工業大学 専門職大学院
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5 TEL: 03-3511-7591 FAX: 03-3511-7594

メールマガジン 好評配信中！ PC http://www.nit.ac.jp/info/Mailmaga_entry
受験生の方が対象です。登録は右記からどうぞ。携帯 http://www.nit.ac.jp/k/Mailmaga_entry

日本工業大学 平成24年度入試日程

工学部 機械工学科/ものづくり環境学科/創造システム工学科/電気電子工学科/情報工学科/建築学科/生活環境デザイン学科

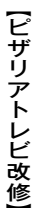
入試種別	日 程	
	一般入試A	一般入試B
一般入試	出願期間	1/ 6(金)～1/26(木)
	試験日	2/ 1(水) 本学・郡山・水戸・高崎・千葉・東京・金沢・静岡 2/ 2(木) 本学・仙台・宇都宮・柏・東京・新横浜・新潟・長野 2/ 3(金) 本学・東京
	合格発表	2/11(土)
	センター利用入試A	センター利用入試B センター利用入試C
特別奨学生入試 【筆記試験、調査書 および面接による選考】	出願期間	1/ 6(金)～1/26(木)
	試験日と試験会場	2/ 1(水)～2/ 3(金)のうち、1日を選択。
	合格発表	2/11(土)
	センター利用入試A	センター利用入試B センター利用入試C
センター利用入試	出願期間	1/ 6(金)～1/30(月)
	試験日	2/ 3(金)～2/17(金)
	合格発表	2/20(月)～3/ 8(木)
	センター利用入試A	センター利用入試B センター利用入試C

- A0入試を第5期まで実施。
- 各入試の詳細はそれぞれの「募集要項」でご確認ください。
- 【入試チェックポイント】
- ① 一年次の学費半額免除！入学手続き締切日は3/13(火)まで。【特別奨学生入試 第2期 他大学との併願可】
- ② 入試奨学金20万円 【一般入試とセンター利用入試の成績優秀者】
- ③ 入学検定料 割引制度 【一般入試、センター利用入試、特別奨学生入試 第2期 複数日受験・複数学科受験など割引】
- ④ 全国14ヶ所受験会場 【一般入試】
- ⑤ 2月・3月に受験できます 【一般入試、センター利用入試、A0入試】

募集要項(願書)のご請求およびお問い合わせ先
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1 TEL.0120-250-267(入試室) URL <http://www.nit.ac.jp/> E-mail: nyu-shi@nit.ac.jp

昨年度の私大部門1位に続き、今年度も総合的に高い評価

ピザリアトレビ、中庭を改修



昨年8月に着工した

アイデアを広く募集する予定である。



今後の本工事計画については、先の日工大通信173号で紹介したとおり、改修

来場者に説明をする学生

した。このような取組みは、電開発センター長の井関

シノオシヤ

シンポジウム・セミナーの季節

いかに貢献しているかについて社会に発信する広報も兼ねている。

かにについて、技術の視点、投資育成者の視点、当事者の視点などを交えながら俯瞰したものと変えたものし

が絶賛した酒屋、豊島屋本店（1596年創業）が守り

No.	監視・測定項目	進捗状況・実施記録(ISO-11のまとめ)	検証 (達成率等)	推進担当者 (記載者)
①	持続的発展が可能な社会の実現を担う人材を育成するための環境教育プログラムの策定	・環境と区別講演会の企画・実施 ・「環境化学ラボ」を用いた全学教育の検討	○	環境教育 検討部会
②	持続的発展が可能な社会の実現に資する人材・高級化学技術者の育成	・環境コア科目「環境と工学・工業社会」講義を実施、次年度コア科目の内容検討 ・自由科目「環境化学実験」の設置、実施、次年度環境系2科目設置 （「環境化学基礎実験」、「環境化学応用実験」） ・春学期環境コア科目「地球環境と人間社会」講義を実施。 ・秋学期環境コア科目「環境と工学・工業社会」の打合せ、開講。 ・新規環境科目「環境化学基礎実験」の実施。		環境教育 検討部会
③	体験的環境教育の推進	エコ・ミュージアムの推進の継続	○	環境教育 検討部会
④	環境に関する研究の推進	・H22年度環境分野研究助成金 研究機関終了 ・H23年度環境分野研究助成金 公募・採択(5件)	○	環境教育 検討部会
⑤	環境コミュニケーションの推進（環境関連情報の発信拠点としての役割と環境マインドの醸成）	・新規・エコミュージアムの登録 ・エコ大学ランキング私立大学第1位を受賞 受賞式・フォーラムへ参加 ・エコロダクツ2010への出展・環境特別講演会 ・エコジョープレスWEB発行・学内報への環境情報提示 ・第69回関東地区電気使用合理化委員会委員表彰「最優秀賞」を受賞 ・埼玉県電力協会「電気使用合理化推進者表彰」を受賞	○	環境推進 事務局
⑥	持続的発展が可能な社会の構築にむけた社会・地域との連携、行動の推進	・参加町「キッズエコサミット」参加 ・「エコキャンパスランキング」受賞への対応 （「エコキャンパスフォーラム」参加 ・環境への取組記事寄稿） ・学内施設環境見学会、取材対応(51名)	○	環境教育 検討部会
⑦	環境教育（学生環境推進委員会への支援とコミュニケーション）	2010/11/04 エコ大学ランキングで表彰に伴い、11/20のエコキャンパスフォーラム2010に参加（学生環境推進委員会数名がフォーラムへ参加） 2011/01/14 第7回EMS推進協議会が開催 5月 学生環境推進委員会へ14名の部員加入 学生環境推進委員会にて、エコロダクツ2011へ出展、学生版環境報告書の作成等の意見交換実施（ISO-12にて発行予定）		学生環境 推進連係 部会
⑧	電力使用量の削減	基準値（H17-19年度平均） 達成率17.0％削減	○	施設環境 管理課
⑨	ガス使用量の削減	基準値（H17-19年度平均） 達成率20.4％削減	○	施設環境 管理課
⑩	上水使用量の削減	目標値（前年実績1％減） 達成率21.4％削減	○	施設環境 管理課
⑪	紙使用量の削減	目標値（前年実績1％減） 達成率5.4％増加		環境推進 事務局
⑫	廃棄物の削減・適正管理	目標値（前年実績1％減） 達成率8.4％削減		環境推進 事務局
⑬	緑地整備・保全	学友門周辺の緑地整備を実施 年間計画に基き、落ち葉清掃、芝生の管理等実施 旧図書館解体に伴う、樹木等の移植実施	○	施設環境 管理課
⑭	グリーン調達（積極的な推進） NITクリエイトから購入する事務用品についてグリーン調達率65％以上	たのめーる調達 金額：調達率41.77％ 個数：調達率50.24％ 財務部：複写機、プリンタの調達率 複写機：4台購入中G商品4台 100％ プリンター：97台購入中G商品97台 100％	○	財務部 NITクリエイト 環境推進 事務局
⑮	安全・環境安全な化学物質の使用、保有管理及び化学廃棄物の保有害・排出管理へ向けた改良	H22.9月の各研究室の保管量データまとめをおこない、影響評価実施 H23.3月の各研究室の保管量調査未実施 部会開催：4月4日、4月28日、6月13日計3回 講習会開催：6月9日高圧ガス講習会、参加者71名 化学物質保有調査：3月末、9月末実施		化学物質 管理検討 部会
⑯	教育・研究施設等の効率的、効果的活用及び管理・運営	11/30（共通系・事務系・外構）の施設使用状況実地調査を実施（安全面を含めて） 7月15日機械工学系部門（機械工学科、ものづくり環境学科） 施設使用状況実地調査を実施		環境管理 責任者
⑰	労働安全衛生法に基づく安全衛生の向上	防災計画の見直し作成 11/30（共通系・事務系・外構）の施設使用状況実地調査を実施（安全面を含めて） 防火防災計画の届出（7月26日） 7月15日施設使用状況調査実施	○	環境管理 責任者



CADソフトをインストールする学生ボランティア

10月より、東日本大震災の被災地の高校を対象に、中古パソコンの無償提供を行っている。これらの中古パソコンは、クボタシステム等の企業でリースアップ

したパソコンを本学が譲り受けたもので、希望する高校を募り、送料負担のうえ発送している。今回の支援は機械工学科の長坂保美教授による発案で、本学が主催する高校生を対象とした「3DCADプロダクトデザインコンテスト」の参加校が今回の震災で学習環境を失ったことを受け、少しでも手助けすることができないか、という思いで協力企業に呼びかけたのがきっかけである。このような経緯から、これらの中古パソコンは、学

提供先	提供数	提供日
釜石商工高校	20台	10月29日設置完了
大船渡東高校	10台	11月5日設置完了
郡山北工業高校	25台	11月26日設置完了
白河実業高校	12台	11月26日設置完了
福島工業高校	20台	12月17日設置完了
小高工業高校	20台	設置日未定

12月20日(火)現在

被災地に中古パソコンを無償提供

東北の6高校に100台以上を送付

生ボランティアによって3次元CADソフトウェアがインストールされた状態で発送され、学生ボランティアが現地での設置作業も行う。被災地域の高校における学習環境復旧とともに、3次元CADの修得を通じて「ものづくり」への興味喚起を目指し、支援を行っている。

高校の被災および復旧の状況によっては、分散して授業を行っていたり、仮校舎が完成しても、実習スペースまでは確保されないなど、パソコンを希望してい

第43回若杉祭開催報告

11/5にホームカミングデー、11/6に建築設計競技表彰式も開催

1300人のSmileがあふれた宮代キャンパス

第43回若杉祭が11月4日(金)から6日(日)まで開催された。今年のテーマは、「smile スマイル」。いつになくシンプルなテーマではあるが、来場者や参加団体が「笑顔」になって、ともに楽しいひと時を過ごしてほしいという気持ちが

込められている。

今回も多くの出店やライブ等の企画が盛大に開催され、最終日の花火を以って大盛況のうちに幕を閉じた。なお、来場者は3日間で延べ1300人であった。



上段：若杉祭で行われた多彩なイベント 下段：ホームカミングデーの参加者(左)、建築設計競技表彰式(右)

就活スタート

2012年度の就職戦線が開始となった。経団連は、就職活動が学業の妨げにならないようにと倫理憲章の見直しを行い、会社説明会などの採用に関する広報活動を例年より2カ月遅れの12月開始とした。本学ではこれを受け、活動期間が短縮されること、空前の就職難であることを考慮し、例年2月から実施していた「学内合同企業説明会」を12月から実施した。11・18日の両日は日曜日にも関わらず、68社の参加を得、学部3年生・大学院1年生の就職希望者のほとんど(728名)が参加をして盛大のうちに終了した。

武里団地に学生が入居し 団地の活性化策を提案

春日部市の武里団地は周
辺より高齢化が進み、高度



自治会の人々も参加し、現地で課題の発表を行った

成長期に建設された他の住宅団地同様、地域コミュニティの弱体化や孤独死などが懸念されている。市は対策として、学生の入居を推進する「官学連携団地活性化推進事業」を立上げた。二人以上のシェア居住、地域貢献活動などを条件に、学生は家賃と交通費の半額補助が受けられる。

10月はじめに、市と包括的連携協定を締結している本学から、最初の入居者として、建築学科3年の藍場

平成24年度大学入試 センター試験 本学で実施

大学入試センター試験が
1月14日(土)・15日(日)の
両日にわたって実施され、
本学は、今年度の大学入試
センター試験の試験会場
(隔年開催)となっている。

なお、本学では大学入試センター試験の得点を
合否判定に利用するセン
ター利用入試を1面左下
の表の日程で実施する。
成績優秀者には、入試奨学
金20万円が給付される。
募集要項入手希望者は、
入試室(0480331
7676)まで。

日本工業大学と栃木市の連携事業

とちぎ市民学舎発見の森セミナー サイエンススクール in 日本工業大学

栃木市教育委員会と本学
が連携し2つの催しを実
施、講師を派遣する一方、
小学生を本学に招き科学教
室を開催した。この事業は
機械工学科有賀教授が平成
21年度に提唱し、3度目と
なる。

「発見の森セミナー」は、
栃木市とその周辺市民を対
象とする教養講座で毎回主
題を設ける。今回は、身近
なエネルギーとそのエネル

弘充君、ものづくり環境学
科金子康信君の2名が入
居。自治体が行う画期的な
試みとして、新聞・テレビ
の取材を受けている。

入居学生の地域貢献活動の
サポートや地元との調整を
行なっている。建築学科3
年の設計演習クラスでは団
地のフィールドとし、自治
会の協力により住民らと交

えた課題の発表会(写真)
や、作品の文化祭への展示
を行った。卒業研究の題材
にする学生など、様々な活
動を効果的に連携させる
ことで、武里団地の活性化

第6回ビジネスプランコンテスト 特別講演開催報告

11月4日(金)、本学学友会館大ホールにおいて、第6回ビジネスプランコンテストの表彰式並びに特別講演を行った。

第1部の表彰式では、応募件数109件(応募者数199名)の中から選んだ各賞(下表参照)を表彰し、優秀賞を受賞したプランの発表を行った。受賞プランの内8件は「2011年全国学生キャンパスベンチャーグランプリ」にも応募した。第2部の特別講演では、「自動車ものづくりシリーズ」の6回目として、橋本昌憲氏(三菱自動車工業EVビジネス本部EV国内推進部)を講師に招き、「電気自動車の次の100年』と題した講演を行った。

当日は学生、企業関係者をはじめ150人程の出席者があり、プラン発表並びに講演では来場者から多くの質問や意見が出されるなど、盛況であった。

審査結果	氏名	プラン名
優秀賞(学長賞)	佐藤竜也 長谷川拓也	車1台の価格でOKI先進エンジン研究バックの事業化
優秀賞(宮代町長賞)	西川博美	私とまちを結ぶ「間(あわい)のベンチ」の提案
優秀賞(産学センター長賞)	吉岡慎 皆川翼	自宅で出来る手話塾
優秀賞(審査員特別賞)	横山裕香	駅前の空き店舗を利用した飲食店等案内サービス
優秀賞	大川智弘 柴垣寿摩 園部幸人	SUMOUフィットネスクラブ
優秀賞	加古賢一郎 岩崎涼	初対面が親友以上に!コミュニケーション加速サービス
優秀賞	深井康功 渡辺悠樹	廃油から製作した石鹸の販売
優秀賞	永瀬麻貴 田代めぐみ	高齢者の住居一室提供の賃貸サービス

奨励賞受賞者は右のURLからご覧ください。http://www.nit.ac.jp/center/pdf/bpc2011_2nd2.pdf

第15回スターリングテクノラリー開催 全国から、高校生を中心に145チームが参加

11月12日(土)、第15回スターリングテクノラリーが本学で開催された。全国から計145チームが参加し、人間乗車、宙返り耐久など5クラスに分かれ、自作車両の性能を競った。また今回、数センチ角に収まるマイクロスターリングエンジンを搭載した車両も参考展示され、注目を集めていた。次回から新クラスの競技として実施される。



左：人間乗車クラス 右：マイクロスターリングエンジン搭載車両

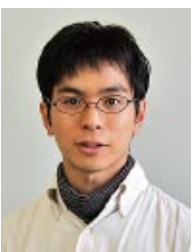


博物館で赤間氏の解説を聞く小学生たち

学生自治会中央執行委員長就任あいさつ

大学生として、意味のある二年を過ごして頂きたい

創造システム工学科3年 高山勇太（日本工業大学駒場高等学校出身）



新年明けましておめでとうござい
ます。新年を迎えて、新しい目標を掲げて
過ごしている方も多いかと思ひます。私
は中央執行委員会新委員長として、より
成果の上げられる1年間にして行きたい
と思ひています。

私が本学に入学して3年が経とうと
して、月日の流れが早いものであると
ただ思ひ知らされます。私は入学当初、
大学生活について何も考えていない時期
がありました。そんな中でも、中央執行
委員会に所属したのは大きな分岐点だっ
たと思ひます。

私は中央執行委員会の委員長として、

皆さんの意見・要望が学生生活に反映
されるように努力を惜しまないつもり
です。しかし、学生自治会の存在を知
らない学生が多いというのも思ひます。
学生自治会では皆さんの生活が
より快適で、より充実させるための試
行錯誤を繰り返しています。年間を通
して行われる企画に参加することや、
大学内の改善点を意見し合うことは自
治会の発展に十分な意味を持っていま
す。ただ傍観せず、自身の意志で行動
を起こす事はこれからの人生に、小さ
いながらも何かしらの意味を持つ事に
繋がると、私は確信しています。

最後になってしまいましたが、申し
上げるまでも無く1年間は長いよう
で、本当に短いものです。この1年間
が皆さんにとって実りの多い、またと
得難いものになるようお祈り致しま
す。

第3回 ものづくり環境学科・創造システム工学科 合同講演会を開催



講演者と2学科主任によるパネルディスカッション

まもなく完成年度を迎え、1年生から4年生までがそろそろ、機械システム学群のものづくり環境学科と創造システム工学科が、第3回目となる合同講演会を12月10日（土）にLCセン

ターで開催した。

今回は、携帯電話やデジ
タル家電から自動車、産業
機械、装置に組み込まれる
コンピュータシステム、原
子力発電所の事故によって
出てきた放射性物質を含む
廃棄物の処理処分に関する
話題を、それぞれメーカ
の開発部門、国の研究機関
の方を招いて講演会が企画
された。

講演は、「組み込みソフト
ウェア入門」と題して、ル
ネサスマイクロシステム株
式会社システム開発事業部
チームマネージャーの館伸
幸氏と「原発事故とごみ」
と題して、国立環境研究所
廃棄物適正処理処分研究室
室長の山田正人氏が行った。

引き続き行われたパネル
ディスカッションでは、仕
事のやりがいや大学生に期
待することなどの話もあり、
さらに、コーヒータイムに
は、充実したキャンパスラ
イフを過ごす2つの学科の
在学生と、一緒に参加した
高校生が交流を楽しんでい
た。

佐々木大輔君が
ベストプレゼンテーション賞を受賞



機械工学科博士前期課程
2年の佐々木大輔君（野口
潤滑油削減などの効果が期
待される。受賞に際し佐々
木君は「日々の研究の成果
が評価されて大変嬉しい。
指導の野口准教授に感謝し
ています。残りの研究活動
の中で、さらなる成果を得
るように頑張っていきた
い」と語っている。

研究室が9月22日（木）、
精密工学会のベストプレゼ
ンテーション賞を受賞し
た。論文題目は「微粒子高
速噴射によるセラミック膜
の成膜に関する研究」。エ
ンジン部品材であるアルミ
ニウム合金に常温大気圧下
で高い摺動性と、耐久性を
もつアルミナセラミック膜
の厚膜を成膜することに成
功。将来的には、自動車部
品のシリンダーやピストン
へのこの膜を成膜し、現行エ
ンジンの軽量化、燃費向上、

通学路のボランティア清掃を実施
学生と近隣住民の74名が参加

11月27日（日）、4回目
を迎える通学路ボランティア
清掃が行われた。学生環
境推進委員会が主催するこ
の取り組みは、宮代町内の
美化と地域の活性化および
近隣住民と学生たちのコ
ミュニケーションを目的と
している。

当日は、13時より集合場
所の宮代町スキップ広場か
ら、4班4コースに分かれ



4コースに分かれ、通学路のゴミを拾う学生たち

て清掃を開始した。一般学
生15名、学生自治会38名、
教職員2名、宮代町役場15
名、中高生4名の、計74名が
参加した。

中高生4名というのは、

第2回節福祭を開催
学生環境推進委員会と宮代町の合同イベント

去る11月19日（土）進修
館にて2回目となる節福祭
がおこなわれた。

この節福祭というのは、
本学の学生環境推進委員会
が昨年より宮代町と合同で
始めたイベントで「環境推
進」、「エコ意識の推進」、
「ネットワーク」の3つを
テーマとして、出展者、来
場者、そして本学学生がお
互いに楽しく環境とエコを
学べる事を目的としてい
る。

名称の節福祭とは学生環
境推進委員会の英語表記で
ある「STUDENT
ENVIRONMENTAL
PROMOTION
COMMITTEE」の頭
文字「S・E・P・C」よ
り命名された。

今回は生憎の雨ではあつ
たが、多くの来場者を迎え
本学研究室の展示やペッ
トボトルケットの製作等の
楽しいイベントが多数開催
され大変盛況であった。

人事異動

- 【任命】（12月20日付）
◆学長 波多野純教授
◆教務部長 成田健一教授
◆学生支援部長 竹内貞雄教授
◆教育研究推進室長 渡部修一教授
◆機械工学科主任 村田泰彦教授
◆創造システム工学科主任 古澤信幸教授
- 【任用】（12月20日付）
◆柳澤章教授（大学院技術経営研究科）
◆渡辺勝彦教授（生活環境デザイン学科）
【任命】（12月20日付）
◆学長特別補佐 渡辺勝彦教授
- 【退職】（12月19日付）
◆柳澤章学長
◆渡辺勝彦副学長
【解任】（10月31日付）
◆入試室課長兼務 栗本収教務課長

学内教育設備巡回実施報告



担当教員から対象設備の説明を受ける一行

平成23年度に導入した教
育設備の見学会が、10月4
日（火）に学長以下執行部
と「学内研究費プロジェクト
チーム（PT）」により
行われた。本設備は、申請・
採択型の学内予算で購入さ
れたもので、事務職員で構
成されたPTが、研修も兼
ね申請書類のチェックやヒ
アリング等に関与した。各
研究室で本設備が有効に機
能している様子を見て、導
入の主旨や意義をあらため
て実感することができた。
尚、今回見学した設備は左
記の通りである。

- ①ガスクロマトグラフ②全
有機体炭素計③高周波プラ
ズマ発光分光分析装置④エ
ネルギー分散蛍光X線分析
装置⑤波長分散型蛍光X線
装置⑥情報工学実験室演習
用パソコン⑦介護浴室シス
テム

- （12月19日付）
◆教務部長 波多野純教授
◆学生支援部長 梅崎栄作教授
◆機械工学科主任 竹内貞雄教授
◆創造システム工学科主任 渡部修一教授
- 【任命】（11月1日付）
◆入試室長補佐 齊藤望入
【配置換】（11月1日付）
◆川村真司総務課主任↓教
務課主任
◆大塚竹郎教務課主任↓総
務課主任
- ◆江原里織経理課員↓学生
支援課員
◆江原慎一学生支援課員↓
経理課員

国外出張

- ◆西村誠介教授（超高電圧
研究センター）／出張先Ⅱ
オーストラリア（10／19、
10／31）／目的Ⅱ国際電気
標準会第7、第42技術委員
会及び関連会議に出席
- ◆古閑伸裕教授（機械工学
科）／出張先Ⅱ中国（10／
31、11／7）／目的Ⅱ杭州
（衢州中等专业学校）と武
したもので、事務職員で構
成されたPTが、研修も兼
ね申請書類のチェックやヒ
アリング等に関与した。各
研究室で本設備が有効に機
能している様子を見て、導
入の主旨や意義をあらため
て実感することができた。
尚、今回見学した設備は左
記の通りである。



ぐりとして関西や四国ま
で参詣していたことが古
文書や御札から確認され
ています。みなさんは、
日々の生活の中でそれぞ
れ願ひ（就職、研究、趣
味、恋愛など）を持って
いるかと思ひますが、参
詣をきっかけに願ひを成
就するための行動をおこ
してはいかがですか。成
就すると大きな自信にな
りますよ。寺社への結果
報告もお忘れなく。

日々
宮代町
宮代
173号

あけましておめでとう
ございます。みなさんは
初詣に行きましたか？
昔の人は、健康、暮
らしの平安、家や村の安
全、豊作などを願ひ寺社
を参詣しました。江戸時
代後期、当時宮代町内に
住んでいた人が、西国め

編集後記

▼「冬来りなば、
春遠からじ。」
（シェリー『西風
の賦』より）。不
滅の名言と言って
良いだろう。▼四
季は、自然にのみ
あるものではな
い。中国で青春、朱夏、白
秋、玄冬と呼ぶように、人
の一生にもある。もちろん、
一つの行為のなかにも存在
する。▼喜びの春、汗だく
の夏、物思いの秋、黙考の
冬、あるいは過ぎの冬とい
うように流れて行く。そし
て、それは必ず巡り来る。
来ないことなどあり得な
い。時の経過とともに待っ
てました、とばかりにやっ
て来る。▼だからこそ、黙
考の冬は、必ず喜びの春に
よって打ち消される運命に
ある。春の来ない冬はある
はずがないのだ。同様に、
朝の来ない夜もないのは自
明の理ではないか。▼「そ
う、悲嘆にくれてばかりい
ないで、希望を捨てずに、
前進を続けようではありま
せんか」と、この言葉は私
たちに訴えかけているかの
ようだ。▼2012年の
年頭にあたり、冒頭の言を
贈りたい。皆さまにとって、
今年がこれまでも増し
て、佳き年であることを心
から願って止まない。【信】

◆環境配慮の観点から再生紙を使用しております。